



IAUD Newsletter vol.8 第3号(2015年6月号)

- 1. IAUD アワード事業の経緯と展望及び「IAUD アワード 2015」ご案内…………… 1
- 2. IAUD が協賛した「HCD-Net フォーラム 2015」参加報告…………… 4
- 3. 第2回 UD 検定・中級 事前講習会及び検定試験実施のご案内…………… 7
- 4. 「第5回国際 UD 会議 2014 in 福島&東京」論文集販売開始…………… 8
- 5. IAUD 7月の予定…………… 8



快適で暮らしやすい UD 社会の実現を推進

IAUD アワード事業の経緯と展望及び「IAUD アワード 2015」ご案内

IAUD は「IAUD アワード 2015」の募集を開始いたしました。

2010年にスタートしたIAUD アワード事業は、一人でも多くの人々が快適で暮らしやすいUD社会の実現に向けて特に顕著な活動を行なっている団体や個人を表彰するもので、今回で5回目の実施となります。

今号のNewsletterでは、IAUD アワード事業の経緯と今後の展望について、IAUD アワード担当の西村澄夫参与に報告していただきます。



「IAUD アワード 2014」プレゼンテーション
／表彰式の様子

IAUD アワード事業とは

IAUD アワード事業は、「まちづくり、ものづくり、仕組みづくりなど、持続可能な共生社会の実現に向けた革新的なUD活動や提案」を審査対象としており、国内外すべての企業や団体、個人が応募可能となっています。

審査は、応募者から提示された審査対象につき、「第1次審査(書類審査)」「第2次審査(本審査)」を実施します。IAUD アワード審査委員会は、国内外のUD専門家、有識者から構成されており、UD理念の提示や具体的なアイデアの提案、あるいは活動の実践等を踏まえて総合的に審査、評価します。

授与された対象には、「IAUD アワードマーク」の使用が許され、UDの普及啓発に活用することができます。

また、すべての受賞対象の中で、審査委員会が最も優れていると判断したものに「IAUD アワード大賞」、また部門別の「金賞」「銀賞」を贈呈します。

受賞者には表彰式において賞を授与します。また、プレゼンテーションも行なっていただきます。

これまでのアワード事業を振り返って

	① IAUDアワード2010	② IAUDアワード2012	③ IAUDアワード2013	④ IAUDアワード2014
応募状況	28件(国内22件/海外6件)	34件(国内32件/海外2件)	38件(国内34件/海外4件)	44件(国内39件/海外5件)
賞構成	4件 大賞1件 優秀賞3件	11件 特別賞/寛仁親王賞1件 大賞/経済産業大臣賞1件 金賞5件 銀賞4件(福岡市長賞1件)	28件 大賞1件 金賞6件 銀賞7件 IAUDアワード [®] 14件	34件 大賞(共同大賞)3件 金賞6件 銀賞8件 IAUDアワード [®] 17件
入賞率	14.3%	32.4%	73.7%(上位36.8%)	77.3%(上位38.6%)
審査委員 (敬称略)	1. ロジャー・コールマン(委員長) 2. ウェレリー・フレッチャー 3. シンガナリ・ハラム 4. 河原林桂一郎 5. 川原啓嗣	1. ロジャー・コールマン(委員長) 2. 益田文和(副委員長) 3. ウェレリー・フレッチャー 4. フランセスク・アラガイ 5. 荒井利春 6. 川原啓嗣	1. ロジャー・コールマン(委員長) 2. 益田文和(副委員長) 3. ウェレリー・フレッチャー 4. フランセスク・アラガイ 5. 荒井利春 6. 川原啓嗣	1. ロジャー・コールマン(委員長) 2. 益田文和(副委員長) 3. ウェレリー・フレッチャー 4. フランセスク・アラガイ 5. 荒井利春 6. 川原啓嗣
審査料	¥0	登録審査料 ¥20,000 2次審査料 ¥50,000	登録審査料 ¥20,000 2次審査料 ¥50,000	登録審査料 ¥25,000 2次審査料 ¥55,000
表彰式 (プレゼン テーション)	11/1 「国際UD会議inはままつ」 ※アクトシティ浜松	10/14 「国際UD会議in福岡」 ※福岡国際会議場	11/21 「設立10周年記念イベント」 ※富士ゼロックスR&Dスクエア	11/11 「国際UD会議in福島&東京」 ※東京国際交流館
企画・運営	認定事業委員会	協同事業検討委員会	協同事業検討委員会	IAUDアワード [®] 担当
備考	*第1回開催 *隔年実施	*事業化	*隔年から毎年実施 *「IAUDアワード [®] 」新設 *新ロゴマーク	*審査料値上げ *マーク使用期間および使用料規定

「IAUD アワード事業」運営の推移

上の表は、初めて実施した「IAUD アワード 2010」から昨秋の「IAUD アワード 2014」まで、これまでの4回の運営内容の推移をまとめたものです。この間に随分と内容も変貌して参りました。

一つは開催年数です。当初は国際UD会議に併せて2年毎でしたが、3回目の「IAUD アワード 2013」より、毎年開催となりました。

次に審査料です。1回目の「IAUD アワード 2010」では、製品やサービスそのものの表彰ではなく功労表彰であること、また学校や市民団体からの参加などとの兼ね合いから無料としました。

その後、2回目となる「IAUD アワード 2012」からは運営に伴い事業化を考慮して有料とし、「IAUD アワード 2014」では若干値上げをさせていただきました。

また、「IAUD アワード 2013」から急激に入賞率が上がった理由としては、UDにおいて一定のレベルをクリアしたと認める「IAUD アワード」の新設です。「IAUD アワード」を授与された応募対象は、「IAUD アワード」マークの使用が可能となり、広報や宣伝にご活用いただけるようになりました。

これは大変重要なことで、IAUD アワードはUD達成度を競い合うのではなく、「認定」の性格を表明したということです。

さらに、「IAUD アワード 2014」では「アワードマーク」をより正しく広報活動にご使用いただくために、使用期間および使用料を規定しました。

今後、UDの更なる普及と実現で応募内容のレベルも向上されるでしょうが、この入賞率は応募状況等も加味しながら上位の入賞率も含め維持調整していくつもりです。

海外からの応募増が最重要課題

応募状況は少しずつですが増えております。しかし、事業化には程遠く、特に海外からの応募が一向に増えてきません。「国際」が恨めしくなります。

毎回、応募要項やチラシの国内版・海外版を公開し、更には国内の主要企業様にもダイレクトに案内を出しています。また、海外においては IAUD グローバルネットワーク等を通じ協力を依頼しています。

しかしながら、未だ有効な打開策が見い出せないのが現状です。

これらに関しては最重要課題と認識しており、今後も展開していく中でアーカイブの充実や広報、イベント等の強化による応募状況の拡大を目指します。

さらに、やがては「IAUD アワード事業部」の設立へ「IAUD アワード 2010」表彰式の様子と発展していくことを念頭に置き、今後もアワードを開催して参ります。

ただ、「UD 社会の実現に向けて特に顕著な活動や貢献をした団体・個人の表彰」とするアワードの開催主旨や応募対象は、これまで通り一貫していきます。

そして、審査委員が定着していることから、審査基準や審査内容等が IAUD アワード理念として着実に構築され、今後も継承されていくことでしょう。正に「継続は力なり」です。



厳正な審査会

そこで今回は、2014年9月にIAUD サロンで開催された「IAUD アワード 2014」第2次審査会の様子を皆様にご報告したいと思います。

私は、当日の進行役と監督役を仰せつかりました。第1次審査を通過した応募書類は、全て日英共に翻訳され事前に審査委員の方々に手配されます。

審査会での海外審査委員とのやり取りは、サロンにて同時通訳者に同席いただき、Skypeのビデオ通話にて行います。

当日は1名の海外審査委員が欠席でしたが、事前に各審査委員からの採点およびコメントは事務局にて受理されており、審査会までに集計されました。

審査会では、初めに第1次審査(書類審査)の経過説明があり、次に2次審査実施要領の説明を経て、本審査(スクリーニング、コメント等)へと移りました。

審査実施要領の一部をご紹介しますと、下記のような5つの審査観点と総合評価の点数およびコメント等から応募受付順に一点ずつ協議の上、「大賞」「金賞」「銀賞」等の候補および決定をします。

1. サステイナブルとユニヴァーサル

持続可能な共生社会創造のための理念と実践。

2. 多様性と包摂性

伝統、文化、生活様式、そして人間の多様性を理解し、少数を排除せず、積極的に包含することで、質的に豊かで幸福な暮らしを実現する。

3. 安全・安心な社会

人権を守り、人間性を尊重した社会の仕組み、制度、モラルの構築。

4. 自発的、かつ持続的な対話

企業・行政・研究機構・NPO、そして生活者間の交流、および関係の構築。

5. 世代を超えた知恵と技の継承

ユニヴァーサルデザインの普及啓発により、次世代を担う人材を育成する。

当日は予想以上に議論が伯仲し、各賞の決定までには至りませんでした。一通り審査委員全員による応募書類の確認を終えていましたので、海外審査委員への時差等による健康配慮および通訳者の事情もあり、定時で打ち切ることにしました。

そして、今後の審査ならびに最終判定はメールベースにて行うことになりました。

なお、「IAUD アワード 2014」の審査結果に関してはご周知の通りです。

※詳細は下記 URL をご覧ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1411/12-000000.php>

審査会を通して印象的だったのは、合格ラインは最低条件が十分に満たしていればいいのか、それとも IAUD はそれ以上のものを期待するのかといった、合格の最低基準と範囲に関する議論でした。

また、「全ての応募者には何らかのコメントを付けて返してあげたい」「アワード終了後に改めて応募者を招集して、審査委員とのトークの場を設けたい」といった提案など、各審査委員の真摯な取り組み姿勢に感動いたしました。

この IAUD アワードを単に事業化のためだけでなく、本当に魅力のあるアワードにしていかなければならないと決意した次第です。

「IAUD アワード 2015」募集中

IAUD は 5 回目となる「IAUD アワード 2015」の募集を開始いたしました。

応募締切は 7 月 17 日(金)です。革新的な UD 活動や提案を応援しますので、皆様の応募をお待ちしております。

※詳細は下記 URL をご参照ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1504/20-000000.php>



「IAUD アワード 2013 及び 2014」展示会

人間中心設計のあり方を考察

IAUD 協賛「HCD-Net フォーラム 2015」参加報告

IAUD が協賛した「HCD-Net フォーラム 2015」(主催:特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構)が、5 月 30 日(土)と 31 日(日)の 2 日間、東海大学高輪キャンパス(東京・高輪)において開催されました。

フォーラムの概要を、30 日に行われた基調講演及びパネルディスカッションに参加した情報交流センターの北村和明所長が報告します。



「HCD-Net フォーラム 2015」会場の様子

IAUD の設立についても紹介

HCD-Net は、機器やシステムの開発に利用品質を高め、ユーザーに優れた体験やサービスを提供する「人間中心設計(HCD)」を効果的に導入することを目的として活動をスタートし、今年で 10 年目を迎えました。

今年度の HCD-Net フォーラムは、全体テーマを「HCD の明日ーこれまでの 10 年、これからの 10 年ー」とし、今までの活動成果の発表や基調講演が開催されました。

開会挨拶では、HCD-Net 理事長の黒須正明氏がユーザビリティの体系化や製品認証、プロセス認証の構想など、HCD-Net の 10 年間の活動についてその時代背景を含めて紹介されました。その中で IAUD の設立についてもご紹介頂きました。

また、これからの活動としては、ポスト ISO13407 の検討や、設立当初のメンバーから新しいメンバーへの世代間継承を挙げられました。

さらに、HCD-Net の活動は会員のボランティア精神に支えられて活性化していると述べられ、これは IAUD 活動にも通じるものがあると思いました。

最後に、「ユーザー視点を忘れるべからず」という言葉を挙げ、製品を販売した後の長い使用期間のことを考えることが重要であると強調されました。



黒須理事長

基調講演「新しい企業のマネジメントスタイルとイノベーション」

森川亮氏 (C Channel(株)代表取締役社長、LINE(株)元代表取締役社長)



森川氏

今までの経験を踏まえて、マネジメントの在り方について述べられました。

IT は日々進化しており、変化に合わせて、変化を強みに替える姿勢が大切であるとし、そのために従来のマネジメントである年間計画を止めて 3 ヶ月計画にしたところ、外国の従業員は平気だったが、日本人は計画通りに動きたいという欲求があり反発を受けたとのことでした。

また、ベンチマーク主義は機能が多く、コストが高いものを生むことが多いが、求められているのはシンプルな製品であり、このギャップを認識すべきであるとし、アジアで勝つには「良いものを早く」が必要である、とお話しされました。

後半は、「良い製品を生み出せるのは大企業かベンチャーか」などの質問を会場に投げかけ、聴衆に考えさせるスタイルで講演が続きました。

森川氏の講演終了後、HCD-Net 副理事長の松原幸行氏と山崎和彦氏が加わり、3 名でのトークセッションが開催されました。

その中で、「世の中の変化は数字よりも感性で感じるものである。そのためには、感性を磨くことが非常に重要である。常に自分の中で製品を分解して、本質について考え、見極める。そして良いものを組み合わせるといふ思考が大切である」との発言が印象的でした。



トークセッションの様子

講演「情報の視覚化のデザイン」: 隈元章次氏((株)サイトフォーディー 代表)

情報の視覚化は、「連動」「感知」「追尾」「記録」「予見」の作業であるとし、それぞれ例を紹介しながら具体的に説明されました。

例えば、「追尾」とはトラッキングの作業で、サッカー選手の試合中の動きを分かりやすく再現する視覚化デザインを行っており、試合中のパスの出し方が良かったかなどの分析が可能となるということです。

また、「記録」に関しては、あるドーム球場の大型ビジョンに映し出される情報について、従来の得点やカウントだけの表示ではなく、現在のバッターのゴロ率やカウント毎の打率などをリアルタイムで表示するようにし、その情報発信が観客を楽しませる要素になっている現状を説明されました。

さらに、今までは5つの要素を単独で表現していたが、今後はそれらの連携が求められていくと述べられました。



隈元氏

講演「融けるデザイン」: 渡邊恵太氏(明治大学総合数理学部専任講師)



渡邊氏

カーソルの動きを工夫することで、画面上で視覚的に表現する方法を研究し、ザラザラ感や立体感をカーソルの動きで表現した内容を説明されました。

また、人はカーソルを体の延長として認識しており、多数のプレイヤーが動く中でも、自分が操作しているカーソルはたやすく認識でき、自分の行動と画面上の動きがマッチしていると気持ちよく感じるもので、これらの感覚を大切にしているとのことでした。

また、連動に注目して作成したインターネット上の料理レシピと連動する計量スプーンや、家具の寸法に合わせて長さをカットするテープカッターなどを紹介されました。

さらに、持丸正明氏(産業総合研究所サービス工学研究センター・センター長)による講演「ISO 国際標準: Human Centred Organisation」、武山政直氏(應義塾大学経済学部教授)による講演「サービスデザインのこれから」、竹部陽司氏((株)リクルートテクノロジーズ IT マネジメント統括部サイトプランニング部 UXD-RLS グループ)による講演「UXD の機能要件とキャリアパスについて」が行われました。



「HCD ベストプラクティスアワード 2015」表彰式

その後、今回が第1回目となる「HCD ベストプラクティスアワード 2015」と、「HCD-Net 最優秀論文賞」の表彰式が行われ、初日のプログラムが終了しました。

今回「HCD-Net フォーラム 2015」に参加させて頂き、有識者の方々の講演内容はもちろんのこと、他の団体の運営内容などを伺えたのは大変有意義な体験となりました。(了)



UD 推進に必要な知識を習得！

第2回 UD 検定・中級 事前講習会及び検定試験、第7回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験の実施

IAUD は第2回 UD 検定・中級の事前講習会及び検定試験を実施します。

UD 検定・中級は企業でものづくりに携わられる方や、行政で UD を推進される方に役立ちます。また、UD 検定・初級資格認定者でなくても受講・受検できますので、多くの方のご参加をお待ちしております。



第1回 UD 検定・中級 会場の様子

第2回 UD 検定・中級 事前講習会

日時:6月23日(火)10時~17時10分

会場:コクヨ(株) 東京品川オフィス(東京・品川)

公式テキスト各章の検定ポイント解説を中心に、UD に関する様々な知識や情報をテキスト執筆者が解説します

第2回 UD 検定・中級 検定試験

日時:7月8日(水)10時~12時

会場:芝浦工業大学 芝浦キャンパス(東京・芝浦)

試験方式:2時間・140問 マークシート方式ペーパーテスト

合格者には「UD 検定・中級 認定証」を発行します。また、名刺への記載も可能です。

※UD 検定・中級 事前講習会及び検定試験の詳細は以下をご参照ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1505/19-200000.php>

UD 検定・中級 公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」

UD 検定・中級受験には公式テキストブックをご活用ください。

本書は各専門分野の第一線で活躍する方々が執筆し、具体的な事例を含めた広範な UD の知見をまとめました。UD 検定・中級の試験問題は本書に準拠して出題されます。

また、検定受験者だけでなく、すべての人にとって使いやすい商品やサービスを提供したい、住みやすいまちづくりをめざしたい、とお考えの方々にも非常に役立ちます。UD に関心のある方は、ぜひ本書をご利用ください。

※公式テキストブックの詳細は以下をご参照ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1410/14-000000.php>



UD 検定・中級公式テキストブック

第7回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験

日時:2015年9月11日(金)9時~12時

会場:芝浦工業大学 芝浦キャンパス(東京・芝浦)

試験方式:1時間・50問 マークシート方式ペーパーテスト

講習会(2時間)と UD 検定・初級試験(1時間・50問)のセット形式で実施。

合格者には「UD 検定・初級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。

※第7回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1505/19-100000.php>

「第5回国際UD会議2014 in 福島&東京」論文集販売開始

2014年11月に開催された「第5回国際UD会議2014 in 福島&東京」の論文発表セッションで口頭発表された査読論文を収録した論文集 CD-ROM の販売を開始しました。この機会にぜひ、ご購入ください。

※詳細は以下をご覧ください。

<http://www.iaud.net/news-f/archives/1506/09-092621.php>



IAUD 7月の予定

6月16日現在

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8 10:00～ 第2回UD検定 中級検定試験 @芝浦工業大学	9 14:00～ 衣のUDPJ @IAUD サロン	10 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン	11	12
13	14	15	16	17 アワード2015 応募締切	18	19
20 海の日	21	22	23	24 13:30～ 標準化WG @IAUD サロン	25	26
27	28	29	30	31		

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。
ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウムなどの開催情報をお寄せ下さい。

次号は 2015 年 7 月発行予定
特集: 新理事長挨拶(予定)

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : salon@iaud.net